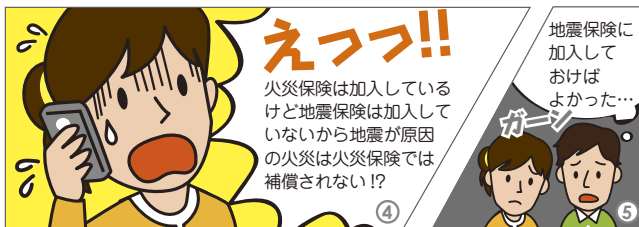


地震保険の必要性

地震への「経済的な備え」となるのが地震保険です。地震保険は“地震等による被災者の生活の安定に寄与すること”を目的とする制度であり、政府と損害保険会社が共同で運営しています。

地震保険に加入していないと…



地震・噴火またはこれらによる津波
(以下「地震等」といいます。)による損害は、
火災保険では補償の対象となりません!

損害の原因	火災保険	地震保険
地震・噴火またはこれらによる津波	×※1	○
上記以外	○	×

※1 地震等により延焼・拡大した火災損害も補償されません。

地震保険は、地震等を原因とする火災・損壊・埋没・流失によって損害が生じた場合に、建物・家財それぞれ最大で火災保険の保険金額の50%※2まで補償することができる保険です。

※2 建物:5,000万円、家財:1,000万円が限度となります。

(注)このご説明は地震保険の概要の説明となります。詳しい内容につきましては、「ご契約のしおり」「重要事項等説明書」をご確認ください。
なお、ご不明な点は損保ジャパン日本興亜または取扱代理店までお問い合わせください。



地震保険は「噴火」を原因とする損害も補償対象です

日本には活火山が110山もあり、東日本大震災以降、火山活動が活発になっている傾向にあります。地震保険は、「地震」が原因の場合の損害だけだと思われがちですが、「噴火」を原因とする損害についても補償の対象となります。たとえ、地震が少ない地域や、津波の心配のない地域でも、これだけ火山の多い日本では噴火の損害に備えるためにも地震保険は重要なんですね。



2015年に発生した主な噴火	
2015年4月	蔵王山(山形県)
2015年5月	口永良部島(鹿児島県)
2015年6月	浅間山(群馬、長野県境)
2015年6月	箱根山(神奈川県)
2015年7月	雌阿寒岳(北海道)
2015年8月	桜島(鹿児島県)
2015年9月	阿蘇山(熊本県)



Check Point

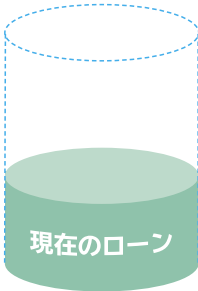


二重ローン問題の回避策として

地震や津波で自宅が全壊しても、住宅ローンはなくなりません。また、住宅再建のためには、新たな住宅ローンを組まざるを得ません。

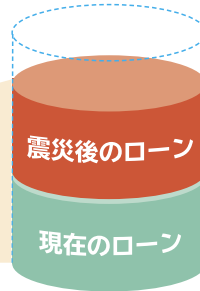
被災地では、多くの人が二重のローンを払い続けています。

想像してみましょう。今支払っている住宅ローンが2倍の負担額になったら…



現在の家計

ローンが2倍となり
家計を圧迫



震災後の家計



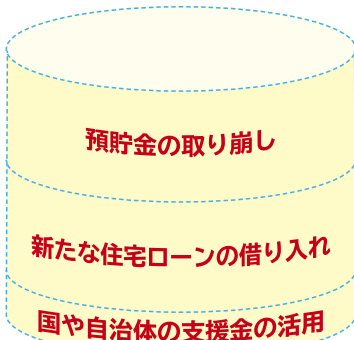
地震によって被る経済的な負担は、地震保険に加入しておくことで軽減することができます。

家計の負担を少しでも軽減するために

被災者生活再建支援法に基づく支援金の支給

地震により住宅が全壊し建て替えた場合、被災者生活再建支援金が支給されますが、支給額は**最大300万円**であるため、生活再建に必要な費用全てを賄うには不十分です。

地震保険金で全てを賄うことはできませんが、生活の再建に大きな役割を果たします。



地震保険加入なし



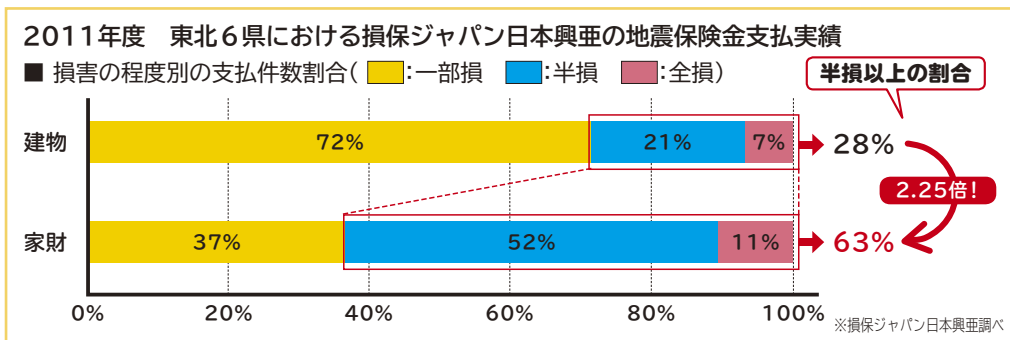
地震保険加入あり

「家財の地震保険」の必要性

地震保険には、「建物の地震保険」と「家財の地震保険」があることを知っていましたか？地震と聞くと、倒壊などの「建物」の損害をイメージしがちですが、食器棚が転倒して食器が割れるなど、「家財」が損害を受けることも多くあります。

「家財」は「建物」よりも損害の程度が大きくなりやすい

近年、耐震性の高い建物が増えてきており、建物に損害が生じなくても家具類の転倒等で家財に大きな損害が発生する割合が高くなっています。



「家財」は意外と高額

生活の中で徐々に増えていく家財。震災後に一度に買い揃えるとなると、思っている以上に大きな負担となります。

(例)世帯主年齢38歳・4人家族のケース(平成27年4月現在)



父 200万円

- 衣類(背広・普段着など) 120万円
- 寝具類(布団・パジャマなど) 30万円
- 身の回り品(腕時計・バッグ・靴など) 50万円



母 400万円

- 衣類(外出着・普段着など) 270万円
- 寝具類(布団・パジャマなど) 30万円
- 身の回り品(腕時計・バッグ・靴など) 100万円



子ども 130万円

- 衣類(普段着・運動着など) 60万円
- 寝具類(布団・パジャマなど) 20万円
- 学用品(文具・図書など) 20万円
- 玩具類(ゲームなど) 30万円



ご家族共通 570万円

- 家具 200万円
- 応接セット・タンス・戸棚など 105万円
- テレビ・ステレオ・エアコンなど 70万円
- じゅうたん・カーテンなど 25万円
- 台所用品 65万円
- 洗濯機・掃除用品 20万円
- 趣味・娯楽用品 155万円
- カメラ・ビデオ・パソコンなど 100万円
- 書籍・スポーツ用品・自転車など 55万円
- その他 130万円

合計 約1,300万円

「建物の地震保険」に加入しているだけでは、「家財」の損害は補償されません。「地震の被害が大きくなりやすい家財も地震保険に加入しておく」ことで、しっかり準備しておくことができます。

防災クイズ！

あなたの防災知識はどれくらい？

Q1

災害時には電話がつながりにくくなることがあります。
家族と連絡がとれない際に便利なNTTの「災害用伝言ダイヤル」。
この番号はどれでしょう？？

① 177

② 171

③ 117

Q2

これらのマークの意味の違いがわかりますか？？

①



②



③



A1

正解は「②171」です！

一般電話、公衆電話、携帯電話など、どこからでもメッセージの録音(30秒間)・再生ができ、留守番電話と同じような感覚で使うことができます。NTTが体験日を設けているので、事前に家族と試しておきましょう。

①177は「天気予報電話サービス」、③117は「時報サービス」です。

災害時に間違えないように注意してください。

災害時の安否確認は「あの人^い71」で覚えましょう。

A2

正解は

①避難所



②非常口



③避難場所



「避難所」は、地震などにより住宅が倒壊し、行き場がなくなってしまった方々を一時的に受け入れる場所で、食料や水の備蓄やトイレなどがあります。

「避難場所」は、災害時に地域全体が一時的に避難する場所で、大きな広場などのスペースをいいます。

※災害対策基本法で定義されています。

自身の避難所、避難場所を確認しておきましょう！